

大利根町文化祭開催

11月15日（土）、16日（日）の両日、大利根町文化祭を開催しました。

文化祭は、夏祭りと同年で開催していますが、今回新しく実施したイベントは、落語会・すみれ公園の遊具のペイント・千葉大学による免許返納に関するアンケート・キッチンカー導入などでした。

落語会



踊り



展示



抽選



回覧

大利根

ミニ広報紙

第27号

令和7年12月号

発行

大利根町公民館
(生涯学習)

電話

253-0949

編集責任者

岡 正雄
(自治会長)

ご意見・ご要望
をお寄せください。



シルバークラブ
合唱



千葉大学アンケート

65歳以上の方の自動車運転免許の返納に関する意識調査を実施しました。

綿菓子



焼きまんじゅう

キッチンカー



グラウンドゴルフ試打会



野菜販売



ふれあいサロン

11月28日（金）ふれあいサロンを実施しました。今回は、昨年実施した寸劇「水戸黄門のクリスマス」の続編「あれから十年大利根村」を実施する予定でしたが、主役の水戸黄門役の柴田義彦様の急逝に伴い、昨年のビデオを鑑賞し、参加した55名で在りし日の柴田様を偲ぶ会となりました。

なお、寸劇の続編「あれから十年大利根村」は来年の2月又は3月のふれあいサロンで、改めて実施する予定です。

寸劇続編「あれから十年大利根村」のあらすじ お楽しみに！

水戸のご老公一行が、クリスマスに大利根村を訪れてから十年後に、もう一度大利根村を訪れたという設定により、物語が進行します。お楽しみに！



昨年の柴田義彦様の雄姿



12月のふれあいサロンは、大正琴の演奏をお楽しみいただきます。

町社協チーム大利根 情報交換会新聞記事

10月29日午後1時30分から午後4時までの間、K'BIX まえばし福祉会館において前橋市社会福祉協議会主催の町社協活動情報交換会第2日目が開催され、東地区代表として【「繋がる」「支え合う」大利根団地町社協チーム大利根ホームページ作成】と題して発表し、参加の皆さんと情報交換しました。

写真は、朝日新聞に掲載された記事です。

享月

日

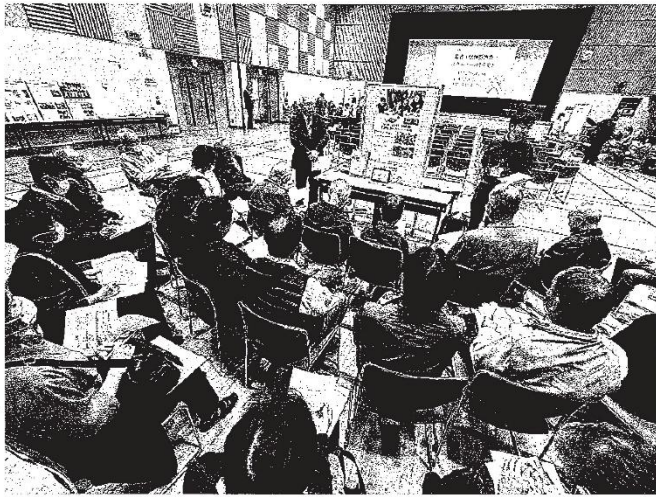
癸子

月曜

2025年(令和7年)11月19日(水)

第3種郵便物認可

「町社協」地域で支え合い



前橋市取り組み

自治会が設立 自ら課題解決

住民たちが住み慣れた地域でお互いに支え合う「町社協」という仕組みが、前橋市で広がっている。少子高齢化が進むなか、住民が主体的に社会課題を解決し、安心して暮らせる地域の実現をめざす全国的にも珍しい取り組みだという。住民は生き生きとした表情で自分にできることに励んでいる。

国内では人口減が進むうえ、2040年には高齢者の割合が3分の1まで増え、深刻な働き手不足に直面する見込みだ。そうした中、各自治体は、介護予防を促したり、要介護状態になっても支え合って地域で過ごせるようにしたりといった「生活支援体制整備事業」に取り組んでいる。

前橋市と市社会福祉協議会は、この事業をさらに充実させるため、より小さな単位の地域が中心となった仕組みづくりを提案。自治会が中心になって町社協を設立し、見守りをしたり、地域の困りごとに対応したりするよう促している。

20年からモデル事業が始まり、現在では市内284の自治会のうち127で町社協があり、各地区の実情に合わせた取り組みを進めている。

町社協の発表を聞く参加者
11月20日、前橋市日吉町

HPに生活情報・困りごと相談窓口…

組みを進めている。

10月中旬～11月上旬には「町社協活動情報交換会」が市総合福祉会館で3回にわたって開かれ、それぞれ五つの町社協が活動内容を報告した。すでに取り組んでいる町社協のメンバーはもちろ

ん、これから活動を始めるようとしている自治会の関係者も集まった。発表は壇上からではなく、パネル展示を前にして車座になり、意見交換できるスタイル。時間を区切り、参加者はそれぞれ三つの町社協の話を聞けるようにした。

高齢化率が市内平均より高い大利根町はホームページを立ち上げ、地区のイベント情報のほか、ごみ収集所などの生活情報も掲載している。自治会長の岡正雄さんは「ホームページで耳の不自由な住民にいち早く大切な情報が伝わった。事件や事故に関する緊急の情報もすぐに掲載し、注意喚起している。回覧板よりも便利」と話す。

身近な困りごとなどの相談窓口「おすすすめ安心サポート」も開設。草むしりや庭木の伐採、リフォームなどは信頼できる業者を紹介し、仕事探しや公共施設の利用方法の問い合わせにも応じる。地域に住む技術や資格がある人たちなど、手伝える人も常に募集 중이다。そのほか、「メーリングリストを活用した助け合いシステム」(昭和町1丁目)、「見守りや支援が必要な人を地図に落とし情報共有」(富田町)など、さまざまな取り組みが発表された。

参加者からは具体的な事業の進め方などについて質問が相次いだ。発表した町社協の施策を参考にして、今後の活動に役立てるといった。

市社会福祉協議会は「担い手不足もあり、人材の活用が必要。できる人が、できることを、できる時にやる。地域の課題を地域で解決する仕組みをつくり、お互いさまの気持ちで住みやすい地域にしたい」と期待している。(小幡淳一)